



社団法人宮城県情報サービス産業協会

## MISA 平成 20 年度新入社員研修（募集のご案内）

1. **主催・実施**：社団法人宮城県情報サービス産業協会
2. **目的**：選りすぐりの講師陣によりシステムエンジニアに必携の基盤技術を系統的に習得し、会員企業における新入社員の実践技術の養成と技術思考スキルの本質的向上を図る。
3. **研修の特徴**：
  - (1) **IT企業の将来を担う中核人材の育成**
    - ①社会人としての基本動作 ②コミュニケーション力 ③技術動向に左右されない基盤技術
  - (2) **MISA研修独自の取り組み**
    - ①双方向のフォローアップ ②ゲストセミナーの開催 ③開発プロセス体験と業務応用力育成

### 4. 開催日程：2008年4月2日（水）～6月6日（金）（全41日間・3コース）

コース名	日程	計画受講料(受講料は後日決定)
①ビジネス基盤養成	4/2(水)～4/11(金) (8日間)	80,000 円 (H19 は 7 日間, 16:30 迄で 68,000 円)
②IT 技術基盤 ②-I 基礎コース ②-II 応用コース	4/14(月)～5/16(金) (18日間)	180,000 円 (H19 は 17 日間で 170,000 円)
③オブジェクト指向開発	5/19(月)～6/6(金) (15日間)	150,000 円 (H19 と同等)

※申込は上記の3つの各コース単位で受け付けます。各コースの内容は別紙を参照ください。

※計画受講料は目安です。申込締切後2月中旬を目処に正確な受講料を決定し通知します。

5. **予定定員**：最大20名×2クラス(「IT技術基盤」は事前スキルや要求スキルを踏まえたクラス分け)
6. **研修時間**：①9:30～17:30 ②、③ 9:30～17:30 (16:30～17:30は課題演習)
7. **会場**：NAVIS(仙台ソフトウェアセンター) ワークショップルーム  
仙台市宮城野区榴岡 5-12-55(JR 仙台駅東口徒歩 12 分、JR 仙石線榴ヶ岡駅隣接)
8. **対象**：MISA 会員企業に常時雇用予定の技術系新入社員(学歴・中途/新卒問わず)
9. **受講料**：全コース受講の場合一人あたり41万円を基本とし後日決定  
※人数が定員に満たない場合、できる限り講座原価の見直しなどを行い、受講料設定の維持に努めることを原則としますが、最終的な受講希望者数によっては若干受講料が上下する可能性があります。  
※雇用能力開発機構の「キャリア形成促進助成金」「実践型人材養成システム」(いずれも各社申請)も適用可能です。申請は各社で直接同機構に開催前の3月に(事前に)お願いします。なお、MISAでは1月位に同助成金申請説明会を開催する予定となっており、後日参加のご案内をいたします。
10. **申込方法**：別紙申込書にて MISA 事務局までお申込ください。第一次締切は1月30日(水)です。  
※別紙「申込にあたっての留意事項」は必ずお読みください

### 11. お問合せ先：

MISA 事務局 TEL:022-217-3023 e-mail:misa@misa.or.jp

#### 【添付別紙】

別紙1:MISA 認定職業訓練の基本体系  
別紙3:申込にあたっての留意事項

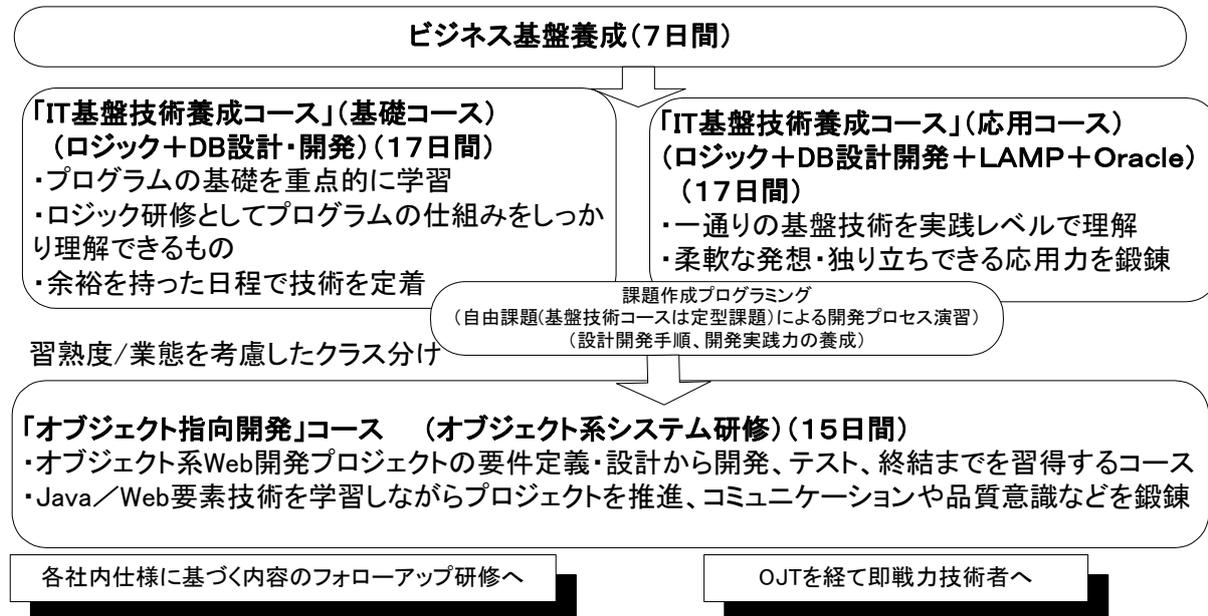
別紙2:MISA 新入社員技術研修・カリキュラム内容  
別紙4:新入社員技術研修申込書

## MISA 認定職業訓練の基本体系

### <育成人材像> 企業の中核人材を目指し将来を担う SE の育成

<p>① コミュニケーション 技術以上に大切なヒューマンスキルやコミュニケーションを実践できる人材 (2Way、プレゼン、文書、情報活用)</p>	<p>③ 業務応用力 情報システムの構想から開発までのプロセスを理解し、システム化思考のできる人材 (SE 業務への理解、開発プロセスの実体験)</p>
<p>② 技術の本質的理解 プログラムロジックなど IT の本質を理解し様々な場面で技術を応用できる人材 (アルゴリズム、ネットワーク/データベース、アプリケーション)</p>	<p>④ 自発性・意欲 自らの仕事の意味をしっかりと理解し、自発的に勉強し、考え、活躍しようとする人材 (自学の習慣づけ、技術を自ら追求する癖)</p>

### <研修の基本体系と到達目標>



### <IT 技術系 2 コースにおける 2008 年度からの新たな特徴>

本訓練の従来からの特徴に加え、皆様からの要望を踏まえ以下の点を新たに加えます。

- ① 「IT 技術基盤」コースは開発現場で求められる実務スキル定着・習慣化を重視
  - ・ 全般にボリュームが多く消化不良も見られたことから、余裕時分を内容追加ではなく定着のために活用する。
  - ・ 例外処理、バグ対応など開発中流工程以降の実務上のスキルを重視し、それらの習慣の定着を重視した研修運営をさらに強める。
- ② 「オブジェクト指向開発」コースは PBL (Project Based Learning) の側面を強化
  - ・ 設計のボリュームが多い、時間が不足する、という指摘を踏まえ、分析設計のドキュメント類の作成演習は必要十分な範囲に絞り込んで演習の組み立てを行う。
  - ・ 要件定義/設計から納品までの流れや UML 設計などの標準的なやり方に関しては引き続き経験できるよう維持を行う。

## 別紙2 2008年度 MISA 認定職業訓練 カリキュラム

ビジネス基盤養成コース（8日間） 各日9：30～17：30

### コースの目的・狙い：

社会人としての基本動作を習得すると共に、MISA 訓練ならではの特色としてビジネスの実践の場で要求されるビジネススキルやコミュニケーションの実務基礎スキルも育成します。

### 育成・到達目標：

- ・ ビジネスマナーの基本動作ができる（挨拶、電話対応、敬語、身だしなみ、名刺交換等）
- ・ 組織で働く上での基本動作ができる（ビジネス文書作成、報連相、効率性／正確性、PDCA等）
- ・ 協調性・柔軟性を持った組織内コミュニケーションが実践できる。  
（チームワーク形成、ミーティング、職場の人間関係形成等）
- ・ 主体性・積極性を持った応用コミュニケーションが実践できる。
- ・ （論理思考、企画／プレゼンテーション、積極的傾聴等）
- ・ ビジネスコミュニケーション力を駆使し、実際の現場で即戦力となるビジネス活動ができる。

科目・日程	概要	講師
開校式（4/2(水)）	9：15～ MISA 挨拶及びオリエンテーション	
<b>ビジネスマナー</b> <b>（3日間）</b> 4/2（水）～4（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人としてのマナー、ビジネスの場で必要な各種コミュニケーションについて学習します。</li> <li>・ 要領の得た話し方、説明・報告の仕方、ビジネストーク・敬語、態度、ミーティングでの発表などについて実際の演習を通じて体得。</li> </ul> <p><b>※07年度より日数が1日延長となっております。ロールプレイング等の時間を多く取り、着実な定着を狙います。</b></p>	フリーアナウンサー （仙台市） 志伯 暁子  （※本研修のみ2クラス合同で行います。）
<b>ビジネススキル I</b> <b>（2日間）</b> Aクラス 4/7（月）～8（火） Bクラス 4/9（水）～10（木）	<b>ビジネス文書、チームワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内外に必要な基本文書の作成、報告書の作成、e-mailでのマナーなど文書作成を幅広く学習。</li> <li>・ 仕事意識、対人折衝、チームワークなどIT企業必須のヒューマンスキルに関して、グループでの演習を交えながら実践的に学習。</li> </ul>	（有）マネジメントプラン（仙台市） 代表取締役 杉山厚志
<b>IT ビジネスコミュニケーション</b> （2日間） Aクラス 4/9（水）～10（木） Bクラス 4/7（月）～8（火）	<b>IT ビジネスコミュニケーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ITビジネスの商談の進み方、その中で必要となる顧客対応力（ヒアリング、e-mail、コンプライアンス、個人情報保護など）に関する総合的なコミュニケーション力を養う。</li> </ul> <b>企画提案書作成、プレゼンテーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンテーションのためのシナリオづくり、企画書作成、コミュニケーション力を養う。</li> </ul> <p><b>※07年度より2日目に成果発表会を行います。受講企業外の参加も可能とし、訓練PRの機会を作ります。</b></p>	マネジメントテクノロジーズ, LLC （東京都） 尾田 友志
<b>ビジネススキル II</b> <b>（1日間）</b> Aクラス 4/11(金) Bクラス 4/11(金)	<b>論理思考・ディベート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロジカルな思考力の鍛錬や会議運営などビジネススキルの応用力を養います。</li> </ul>	杉山厚志（Aクラス） 尾田友志（Bクラス）

<b>【ゲストセミナーⅠ】</b> (4日(金)を予定) 16:30~17:30	テーマ: IT業界の動向と技術者に求められるもの(仮題) (株)システムワン 専務取締役 高橋 貴紀 氏 (※1時間程度の講演+質疑)
<b>【訓練生交流会Ⅰ】</b> (11日(金)を予定) 17:40~19:30	会場: NAViS リンケージルーム(会議室) ※飲食費用は協会が負担します。 (過去の本訓練受講生(先輩)との懇談を盛り込む予定)

＜1社当たり2人以上での受講の場合の「ビジネス基盤養成コース」のクラス分けに関して＞

- ※ 「ビジネス基盤養成コース」のAクラス、Bクラスの実施テーマや基本内容は同一ですが、実務経験豊富な講師の特性を最大限に生かした講義づくりを行うため、詳細内容は若干異なります。
- ※ クラス分けに関しては、07年度までは「同一企業受講者/同一クラス」としておりましたが、08年度よりそれにこだわらないクラス分けを行う予定です。万一「同一企業受講者/同一クラス」を望む企業に関しましては、申込用紙の指定欄でその旨を指定願います。(申込企業数により調整させていただく場合がありますが、その際は別途ご相談申し上げます)
- ※ 「同一企業受講者/別々のクラス受講」の場合、研修受講の中で他社受講者とのコミュニケーションの機会がより積極的に持てること、自社に帰ってから受講者同士が異質な習得内容を後日比較し相乗効果を高められることなど、貴重な独自のメリットが期待できます。

**IT技術基盤コースⅠ(プログラム開発基礎コース)(18日間)**  
 各日9:30~17:30(16:30~17:30は課題演習)

**コースの目的・狙い:**

ITサービス産業での基盤技術であるアプリケーション、データベースの実践技術を養うと共に、IT開発の流れを理解し開発現場における必須の留意点などに関して習得します。  
 本コースは**理解のしやすさと習得内容の定着を重視した基礎コース**となります。

**育成・到達目標:**

- ・ プログラムの基本原則を理解し、言語に左右されないプログラム開発技術基盤を有する。
- ・ 業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
- ・ オープンソースを基盤としたWebアプリケーション開発技術を理解し、実装できる。
- ・ 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
- ・ 模擬ITシステム開発プロジェクトの実践を通じて、IT開発の全体像や流れを理解できる。
- ・ チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師: (有)パーソナリティレビュー(横浜市) 三苦 健太

科目・日程	概要
プログラム開発プロセス 4/14(月)(1日間)	・ アルゴリズムの組み立てからプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発プロセスをまず理解する。
アルゴリズムとC言語 15(火)~23(水) (7日間)	・ プログラムのロジックを理解し、開発の本質となる基本の定着を目的とした研修。 ・ 最も汎用性が高く実践的な言語であるC言語を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラム構造、データ型や変数、演算子、条件分岐、繰り返しなどの基本を演習。

RDB 入門 4/24 (木) (1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。</li> </ul>
予備日 4/25 (金) (1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半部分に関する定着度の確認とフォローアップを行う。</li> </ul>
(GW期間中の平日)	<p>事前の申出により平日に限り会場を開放 (9:00~17:30)。 28 日 (月) のみ講師対応有りの自習日とする予定。</p>
DB 操作と SQL 言語 5/7 (水) ~9 (金) (3 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>OracleDB (Oracle9i Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。</li> </ul> <p>※中間レビュー 課題プログラム演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック</p>
Web 開発演習 5/12 (月) ~14 (水) (3 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務アプリケーション開発の初歩として、汎用性の高い PHP・Perl による Web アプリケーション開発を学習。</li> </ul>
発表準備 5/15 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解度のおぼつかない受講生はフォローアップとして納得いくまで弱点分野の課題を解く演習を実施。</li> <li>課題作成プログラムのプレゼンテーション資料等を作成。</li> </ul>
課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 5/16 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師提示の研修内容に関連したプログラム開発に関する課題により、グループにて仕様書作成、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワーク力も吸収する。 (内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする)</li> <li>概ね期間後半 (「アルゴリズムと C 言語」終了後) を目処に課題演習を開始。</li> </ul>
<b>[ゲストセミナーⅡ]</b> (4/25 日 (金) を予定) 16:30~17:30	<p>テーマ：ソフトウェア開発の品質管理 (仮題) (株)ピッツ 東北事業所長 大森 清視 氏 (※1 時間程度の講演+質疑)</p>
<b>[訓練生交流会Ⅱ]</b> (4/25 日 (金) を予定) 17:40~19:30	<p>会場：NAViS リンケージルーム (会議室) ※飲食費用は協会で負担します。 (過去の本訓練受講生 (先輩) との懇談を盛り込む予定)</p>

※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。

※ プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は Oracle10g Windows を利用。

**IT 技術基盤コースⅡ (プログラム開発応用コース) (18 日間)**  
各日 9:30~17:30 (16:30~17:30 は課題演習)

**コースの目的・狙い：**

IT サービス産業での基盤技術であるアプリケーション、データベースの実践技術を養うと共に、IT 開発の流れを理解し開発現場における必須の留意点などに関して習得します。

本コースはより高度な現場寄りのスキル育成を重視した応用コースとなります。

本コースでは基礎コース同等の目的に加え、UNIX 上での演習を通じて、オープンソースシステム全体を複合的に捉えられる応用技術や自立的な技術探究力の習得も目標とします。

### 育成・到達目標：

- ・ プログラムの基本原理を理解し、言語に左右されないプログラム開発技術基盤を有する。
- ・ 業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
- ・ オープンソースによる Web プラットフォーム及びアプリケーション開発技術を理解し、Web システムとしての基本的な実装・利活用ができる。
- ・ 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
- ・ プログラム開発実務における技術探究調査、開発、テストなど各段階で自立的な行動が取れる。
- ・ 模擬 IT システム開発プロジェクトの実践を通じて、IT 開発の全体像や流れを理解できる。
- ・ チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師：IT スペシャリスト（仙台市）浅野 秀一

科目・日程	概要
プログラム開発プロセス 4/14（月）（1日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本コースで使用する演習環境のインストールを行う。 OS:MiracleLinux DB:Oracle10g</li> <li>・ アルゴリズムの組み立てからプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発手順を整理する。</li> <li>・ 期間中は課題作成演習を研修に併せて実施し、習得技術の定着、応用力の強化や柔軟な発想力の育成を図る。</li> <li>・ TCP/IP ネットワークの基礎を学習。</li> </ul>
UNIX の基礎 4/15（火）（1日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーザ管理、ディレクトリ操作、ファイル操作、ネットワーク操作等の UNIX コマンドを習得する。</li> <li>・ 本コースで使用する環境の確認・設定等を行う。</li> </ul>
アルゴリズムと C 言語 16（水）～22（火） （5日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムのロジックを理解し、開発の本質となる基本の定着を目的とした研修。</li> <li>・ C 言語を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラムの構造、データ型や変数、演算子、ステートメント、ポインタ、構造体といった基本を、演習を主体に学習。</li> <li>・ 応用として並び替え、順位、検索、線型リストを学習。</li> </ul>
Web 開発演習 4/23（水）～24（木） （2日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務アプリケーション開発の初歩として、オープンソース利用の典型である PHP による Web アプリケーション開発を学習。</li> </ul>
課題作成プログラム・中間レビュー 4/25（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由課題による課題作成プログラミングの中間レビューを実施。アルゴリズムやフローチャート等の出来具合の確認、開発計画の妥当性、品質などに関してレビューを行い、コーディング演習へつなげる。</li> </ul>
（GW期間中の平日）	<p>事前の申出により平日に限り会場を開放（9：00～17：30）。 28日（月）のみ講師対応有りの自習日とする予定。</p>
RDB と SQL 言語 5/7（水） （1日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。</li> <li>・ OracleDB の各種ツールの使用、SQL 言語を学習（復習）すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。</li> </ul>
データベース設計・開発 5/8（木）～9（金） （2日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データベーススペシャリストに必要な ER 分析など DB 設計の基本や構築・管理に必要な技術を学習。</li> <li>・ Oracle を題材としたデータベースの実装、各種操作に関する学習。</li> </ul>

Web/DB 連携プログラム 5/12 (月) (1日間)	・業務アプリケーション開発の初歩として、あるいは学習した技術の総仕上げとして Web/データベースアクセス型のアプリケーション開発を学習。
課題作成プログラム・総仕上げ 5/13 (火) ~15 (木)	・本研修の目玉である課題作成プログラムに関して、テスト等指導し成果物を完成させる。 ・開発プロセスを振り返ったレビュー、プレゼンテーション資料の作成等も行い、成果発表会に向けた準備を行う。
課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 5/16 (金)	・研修の一環としてグループにて開発計画の立案、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワークも吸収する。本コースでは、上流工程の内容は軽めとし、ITシステムの開発(モノづくり)の基本的な手順の理解と経験に重点を置く。 ・課題作成プログラムは研修に並行して進める。
[ゲストセミナーⅡ] (4/25日(金)を予定) 16:30~17:30	テーマ: ソフトウェア開発の品質管理(仮題) (株)ビッツ 東北事業所長 大森 清視 氏 (※1時間程度の講演+質疑)
[訓練生交流会Ⅱ] (4/25日(金)を予定) 17:40~19:30	会場: NAViS リンケージルーム(会議室) ※飲食費用は協会が負担します。 (過去の本訓練受講生(先輩)との懇談を盛り込む予定)

- ※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。
- ※ 本コースは応用コースですが、ITシステム開発やプログラミングの経験の有無は受講前提条件とはなりません。業務系のシステム開発はあくまでゼロベースである前提に立って研修を進めます。
- ※ 「プログラム開発応用コース」のプログラム実習はフレームワークを使わないエディタ上での実習となり、実習環境も UNIX(Linux)が基本となります。OSSの本質的な実践技術を身につける上で本コースは最適と考えます。

### オブジェクト指向開発コース(15日間)

各日 9:30~17:30 (16:30~17:30は課題演習)

#### コースの目的・狙い:

オブジェクト指向による Web システム開発の PBL (Project Based Learning) の実体験を通じて要件定義から設計・開発、テスト、納品までの IT プロジェクトマネジメントを実践し、SEに必要な実務スキルや知識の即戦力を養います。

#### 育成・到達目標:

- ・業務系課題の解決を目指した情報化プロジェクトの実践を通じて、ITシステム開発上流工程からの全体像や流れを理解し、プロジェクト要員としての行動や基本的なマネジメントができる。
- ・プロジェクトマネジメントに必須となるプロジェクト計画書の作成、人員やリソースを踏まえた役割分担、仕様書、プレゼンテーション資料、議事録などの企画立案及びドキュメンテーションができる。
- ・研修でオブジェクト指向開発に必要な分析設計、UMLによる表記などの標準手法を理解し、研修後に各社の独自手法と相対的に比較しながら現場で必要な行動を実践できる。
- ・オブジェクト指向開発に必要な基礎技術 (Java、MVC モデル、JSP、DB 等) を有する。
- ・チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師: (株) デジタルイノベーション (さいたま市) 代表取締役 井本 貴志 (Aクラス)  
ITスペシャリスト (仙台市) 浅野 秀一 (Bクラス)

科目・日程	概要
オブジェクト指向分析・設計 5/19 (月) ~21 (水) (3日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム開発の手順を理解する。</li> <li>オブジェクト指向の基本知識を習得する。</li> <li>システム分析・設計の開発モデルを理解する。</li> <li>UMLによる要求のモデリング、ユースケース図システム分析や設計の基本的なパターンを学習する。</li> <li>課題演習の要件定義・設計図の作成を併せて行う。</li> </ul>
ソフトウェア設計 22 (木) ~27 (火) (4日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム化要件定義を受けて、ソフトウェアへの要求事項について、「機能分割」「インタフェース設計」「コンポーネント設計」「入出力画面および帳票」「コード」「データベース設計」などをソフトウェア設計書にまとめる</li> <li>実装言語として Java を使用し、Java の特徴や基本構文 (条件分岐、繰り返し、演算子)、クラスやメソッド、オブジェクト等を解説。</li> <li>クラスの継承や多様性、カプセル化などについても学習。</li> </ul>
課題作成プログラム・中間レビュー 5/28 (水) (2クラス合同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務系のケース課題による要件定義と設計、仕様書作成、開発計画等に関する中間レビューを実施。設計や開発計画の妥当性、品質などに関して2クラス合同で発表会とレビューを行い、開発演習へつなげる。</li> <li>チームワークでの議事録や役割分担等についてもレビューを行う。</li> </ul>
コンポーネント設計 (Controller 設計) 29 (木) ~30 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>MVC モデル Controller 設計に関して学習。</li> <li>単純な要素技術ではなく通信プロトコル、UML、HTML や HTTP といった背景/関連技術の要点を交え、ある程度独り立ちできることを狙いとする。</li> </ul>
コンポーネント設計 (Model 設計) 6/2 (月) (1日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>MVC モデル Model 設計として、サーバサイド技術である JDBC によるデータベースアクセスに関して学習し、課題演習を支える技術として吸収する。</li> </ul>
コンポーネント設計 (View 設計) 6/3 (火) ~4 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>MVC モデル View 設計として JSP を使用し、View 設計を行う</li> </ul>
課題作成プログラム (期間を通じて) 総仕上げ 6/5 (木) 発表会 6/6 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務系の課題を元に、ソフトウェア工学に基づく模擬プロジェクトを推進。グループにて情報システムの企画から設計、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。</li> <li>所属会社や保有スキルを問わず全てバラバラの混合チームに分け、プロジェクトチームで開発していく意義やコミュニケーション、ドキュメントの整備、役割分担と計画、品質など業務系システム開発に不可欠かつ重要な内容を模擬体験できるものとする。</li> <li>本演習は「訓練として失敗の許される」プロジェクト模擬体験として位置づけ、訓練終了後は円滑に OJT や実務に入ることができるよう配慮する。</li> </ul>
<b>[ゲストセミナーⅢ]</b> (5/23日(金)を予定) 16:30~17:30	テーマ例：システムエンジニアの仕事 (※1時間程度の講演+質疑) (予定) (株) アート・システム マネジャー 荒井 勝広 氏

※ 本コースはソフトウェア工学に基づく業務系のITプロジェクト模擬体験を主目的とするPBL (Project Based learning) です。

※ 研修の目的に照らし合わせながら受講者の習熟度や進捗状況によって適宜習得技術内容の追加や割愛を行う場合もあります。

※ DBはAクラスがMySQL、BクラスがOracleを使用する予定です(カリキュラムは双方共通)。

## H20年度MISA新入社員研修 申込に当たっての留意事項

※ 重要・申込の前に必ずお読みください

### 【申込にあたっての注意事項】

#### ① 申込締切

申込の第1次締切は平成20年1月30日(水)、第2次募集締切は2月22日(金)です。最終受講料の決定は2月25日(月)を予定します。

#### ② 受講者確定前の申込

上記の募集締切までに受講者が確定しない場合、受講人数枠で事前予約もできます。MISA事務局宛に別途ご相談の上、仮申込をお願いします。

(特に人気の高い「ビジネス基盤養成コース」は第1次締切迄の申込をお願いします)

#### ③ 受講料の確定

第1次募集の申込状況を踏まえた上で2月中旬までを目処に確定し、申込担当者宛にe-mailにてご案内いたします。受講料は原則として計画金額を基本に調整させていただきますが、受講希望者数の状況によっては受講料が若干高くなる場合もあります。予めご承知おきください。

#### ④ 受講料の請求と払込

概ね開講1ヶ月前までに事務局より確定受講料による請求書と受講票をお送りいたしますので、指定期日までに振込をお願いいたします。指定期日以後のキャンセルは一切できませんので予めご了承下さい。

#### ⑤ コース・クラスの選択

「ビジネス基盤養成コース」のクラス分けに関して、同一企業/同一クラスを希望する場合は、必ずその旨を選択いただくようお願いいたします。

「IT 技術基盤コース」は「基礎コース」と「応用コース」のいずれかの選択となります。受講者に応じて適切なコースを選択いただくようお願いいたします。

★ 他クラス分けは、受講者や受講企業の状況等を総合的に勘案し協会側で行います。

#### ⑥ 研修時間

研修時間は9:30～17:30です。「ビジネス基盤養成コース」は昨年度より1時間延長しておりますので、ご注意ください。

### 【受講料適用に関する条件等】

雇用能力開発機構「キャリア形成促進助成金」の受給対象となります。

受講料、人件費共に助成対象となりすでに実績があります。受給資格認定は雇用能力開発機構の判断になりますので、詳しくは雇用能力開発機構・宮城センターまで事前に照会してください。キャリア形成促進助成金担当者に「MISA認定職業訓練のキャリア形成申請」と伝えればわかります。(本新人研修を受給対象とする場合、事前の3月の受給申請が不可欠です)。

→ 「実践型人材養成システム」(実習併用職業訓練)としての申請も可能です。

- ・ 認定職業訓練と社内でのOJTを組み合わせた「実践型人材養成システム」への申請も可能です。認定職業訓練2ヶ月での受講料、人件費の助成の他、1年間(同制度上は2年)までの1時間600円のOJTに係る費用も助成対象となります(ただし自社での評価の実施が不可欠です)。

詳しくは雇用能力開発機構・宮城センターへお問い合わせ願います。

以上

## (社)宮城県情報サービス産業協会事務局 御中

Fax. 022-217-3055 E-mail misa@misa.or.jp

「MISA 新入社員研修」申込書

会社名 \_\_\_\_\_

申し込み担当者(所属・役職) \_\_\_\_\_

参加者欄				
(予定)所属部署	(ふりがな) 参加者氏名	年齢	申込コース (○で囲んでください。)	事前スキル等
	( )		1. 全3コース(基礎コース) 2. 全3コース(応用コース) 3. コース選択受講 →受講コース番号 ( )	
	( )		1. 全3コース(基礎コース) 2. 全3コース(応用コース) 2. コース選択受講 →受講コース番号 ( )	
	( )		1. 全3コース(基礎コース) 2. 全3コース(応用コース) 2. コース選択受講 →受講コース番号 ( )	
「ビジネス基盤コース」 のクラス分け希望 (複数受講の場合)	1. 受講者が別々のクラスになっても構わない(他社との混合を優先したい) 2. 受講者全員が同一クラスにして欲しい			

※事前スキルに関しては特記すべきスキルがあれば、分かる範囲で簡単に結構ですので必ずご記入ください。  
研修運営やクラス分けなどの参考にいたします。

(例:「ソフトウェア開発技術者」資格有、Java 習得済み、C 言語通信教育済み、初心者、など)

※事前スキルの内容やコース選択、あるいは受講者の現有技術と研修の必要性有無などの判断に迷われる場合は事前に MISA までご相談ください。

※4名以上の申込の際は本用紙を複写してご利用ください。同一企業からの複数人数の受講に関しては、極端に多人数にならない限り人数調整の上原則として全員を受け入れいたします。

※申込の第一次締切は2008年1月30日(水)です。

※受講者の個人情報に関しては MISA 事務局での保管となり、MISA の個人情報保護規定に基づき運用いたします。目的外使用は致しません。